

今後の維持管理について

【目次】

1. 維持管理計画（案）の検討について・・・・・・・・・・ P2
2. 自然再生地全体のゾーニング（案）・・・・・・・・・・ P3
3. 上池のゾーニングと目標像（案）・・・・・・・・・・ P4
4. 中池のゾーニングと目標像（案）・・・・・・・・・・ P5
5. 下池のゾーニングと目標像（案）・・・・・・・・・・ P6

1. 維持管理計画（案）の検討について

- 当面の間に目指す自然再生地の目標像とそれを実現するための維持管理活動、重点管理区域と粗放的管理区域などゾーニング区分、を明確にして各ゾーンの維持管理項目（時期・内容・必要な労力など）を整理した「維持管理計画（案）」を検討します。
- 今回は（１）ゾーニング区分と目標設定についてご議論いただき、次回は（２）各ゾーンの維持管理と（３）実施体制についてご議論をお願いいたします。

▶ 維持管理計画（案）における検討項目

（１）ゾーニング区分と目標設定：「重点管理区域」と「粗放的管理区域」の明確化と目標設定

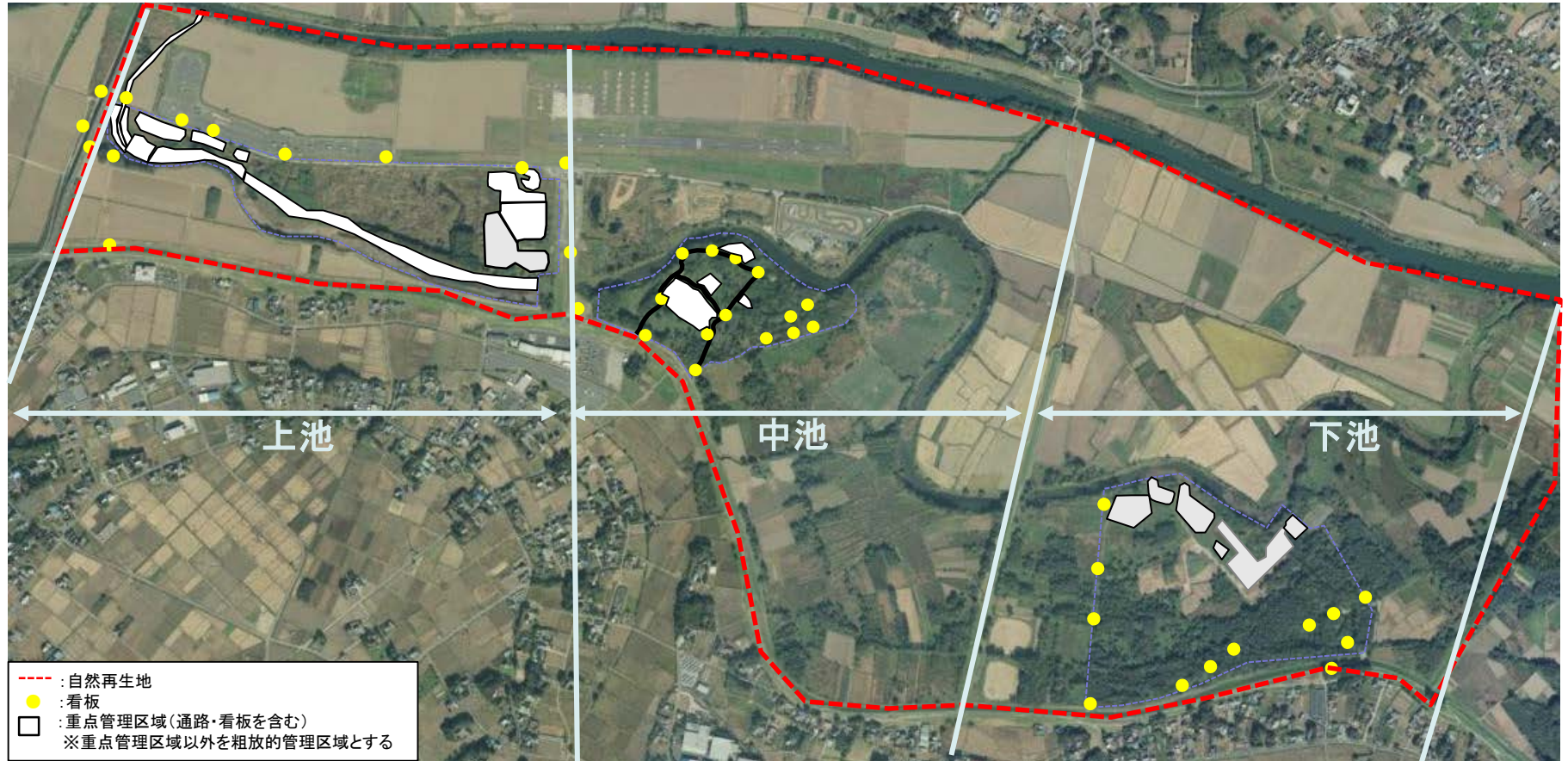
※重点管理区域は、これまで維持管理・環境管理専門委員会において定期的に維持管理を実施してきた箇所を位置づける。

※粗放的管理区域は、それ以外の区域とする。

（２）各ゾーンの維持管理：①現状、②目標、③作業内容とスケジュール、④留意点

（３）実施体制：維持管理・広報・調査研究・資金的支援の分担

2. 自然再生地全体のゾーニング（案）



空中写真は荒川上流河川事務所撮影（2018年12月27日撮影）

3. 上池のゾーニングと目標像（案）

◆構想：「旧流路の保全（再生）」
 「湿地及び止水環境の拡大」
 ◆確認されている目標種：ヒシ、エキサイゼリ、ミナミメダカ、カワセミ等

①旧流路の保全（再生）

周縁部の外来種を除去し、ミナミメダカ、カワセミなどの目標種が生息する水面環境を維持する。

②湿地及び止水環境の拡大

周縁部に外来種が侵入・増加しているため、除去作業を継続し、土壌の水分状況に応じて、ヨシやオギを中心とした湿地環境を維持していく。



③旧流路の保全

ヒシやエキサイゼリなどの目標種が生育する水面・湿地環境を維持していく。
 ※外来種も侵入しているが年変動が大きく、目標種の生育を妨げる状況は認められないため、当面は見守っていく。

重点管理区域の位置図

重点管理区域：枠囲み範囲（呑口・通路・看板を含む）
 粗放的管理区域：それ以外の範囲

4. 中池のゾーニングと目標像（案）

- ◆ 構想：「河畔林の保全」
- ◆ 確認されている目標種：バン、ホンシュウジネズミ、ホンドキツネ等

①チガヤ群落



外来種の再繁茂が見られるため、「在来種による草地環境の形成」を促し、ギンイチモンジセセリなど乾性草地に生息する希少な生きものが繁殖する場とする。

②オギ群落



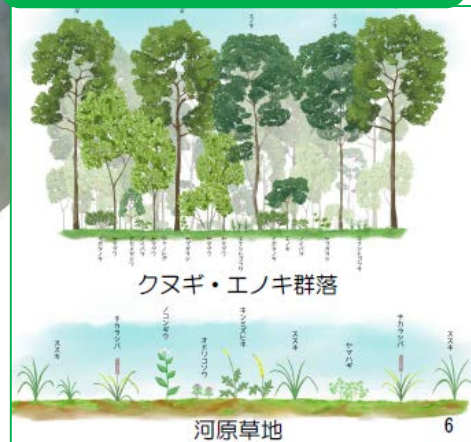
オギ群落周辺に外来種の再繁茂が見られるため、「オギ原の形成」を促し、ホンドカヤネズミやオオヨシキリなどの生息空間とする。

③サクラソウを中心とした湿性草地



大型草本が優占種となっている中池湿地を「サクラソウ群落の形成」を促す。また、浅い水辺などに生息するトウキョウダルマガエルなど生息環境を維持する。

④河畔林と河原草地



水際のシンジュ伐採跡地は、1) 水辺へのアクセス性を活かし低茎草地（河原草地）の育成、また、2) クヌギ林などの河畔林を育成し、オオムラサキなどの生息環境を維持する。



重点管理区域：枠囲み範囲
（通路・看板を含む）
粗放的な管理区域：それ以外の範囲

重点管理区域の位置図

5. 下池のゾーニングと目標像（案）

- ◆ 構想：「河畔林の保全・再生」
- ◆ 確認されている目標種：オオタカ、ミドリシジミ、オナガミズアオ等



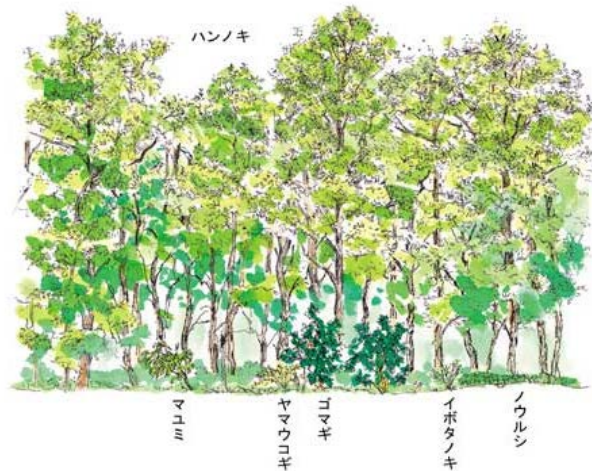
① 幼木の移植や種まきを実施する箇所
(過去に移植した幼木が定着)



重点管理区域：枠囲み範囲
(通路・看板を含む)
粗放的な管理区域：それ以外の範囲

重点管理区域の位置図

ハンノキ林の再生



- ハンノキの幼木の移植や種まき等を通じて、ミドリシジミやオオミズアオ等が生息するハンノキ林を再生する。ただし、水位が高い箇所については、当面見守ることとする（黄枠）。
- 一部は幼木生産の場とする（橙枠）。



② 幼木生産の箇所



③ 幼木生産の箇所



④ 水位が高く当面見守る箇所



⑤ 水位が高く当面見守る箇所



⑥ 水位が高く当面見守る箇所